

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

単位制で培った一人ひとりの個性を大切にする長吉高校の教育力をさらに向上させ、エンパワメントスクール総合学科の枠組みを活用し、すべての生徒を「地域を支える人材」として育成できる学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 共感から始まる「わかる授業」づくりをめざした校内体制の強化を図る。

ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。

イ モジュール授業等で学習のつまずきを取り除き、基礎・基本の定着に努める。また、基礎学力の到達度を3年間通じて追跡する。

ウ 教員の話す力などのコミュニケーション力を含めた「授業力」の向上を図る。

エ 電子黒板とタブレット端末などのICTを活用し、学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業」を展開する。

※ 教員向け学校教育自己診断における「電子黒板等ICT機器を活用し授業を行った」を毎年2%上げ、平成32年度には85%にする。
(平成29年度：80%)

オ 授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を毎年3%上げ、平成32年度には65%にする(平成29年度：61%)

2 安心で魅力ある学校づくり

(1) エンパワメントスクール総合学科の改編を推進する。

ア 従来の分掌体制を刷新する。

イ 学級経営を含めた担任としての力量の向上を図る。

ウ モジュール授業及び3年間のエンパワメントタイムなどの内容等について、教材の作成及び取組みの継続とスムーズな運営を行う。

(2) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす。「気づきシート」「教科アンケート」を通じて、教員の生徒情報共有会議を密接に行う。

イ 「高校生活支援カード」の活用を通じて、様々な背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、支援、育成する体制づくりを進める。

ウ 魅力ある学校行事への改善を進める。

エ 生徒による図書委員会を活用し、図書室の活性化を図る。

オ 部活動の活性化を図る。

カ 保健室、カウンセリングルーム、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。

キ 生徒も一緒に清掃活動を行うことで施設を大切に使用する意識を育てる。保健委員の委員会活動を活発にする。

(3) 出口を保障する学校づくりを推進するための本校独自のキャリア教育の確立を図る。

ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。

※ 就職内定率を毎年2%向上させ、3年間で98%をめざす。(平成29年度の就職内定率：97%)

イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。

ウ 問題行動の未然防止に取り組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。

※ 遅刻者数を毎年2%減らし、平成32年度には8%減少をめざす。(1・2・3年合計 H29：4362回 → H32：4013回)

※ 生徒向け学校教育自己診断において「自分からあいさつやお礼を言うことができる」における肯定感を毎年2%引き上げ、平成32年度には86%にする。
(平成29年度：81%)

エ 実用的な技能・資格の取得者の増加を図る。

(4) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことでいじめや差別の未然防止に努める。

イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進する。

ウ 大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。

(5) 本校と専門学校・短大・大学との連携を進める。

ア 大学等と連携しながら、学校行事や授業、生徒の学習支援、進路支援等とつながるような学校体制を構築する。

3 積極的な情報発信

(1) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

ア 授業を積極的に公開するとともに授業や行事等の高校生活の様子を学校説明会やHP等を通じて広報活動を行う。

また、エンパワ生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。

イ 生徒が地域等へ出かけていく取組み(ボランティア活動等)を進める。

ウ 本校の国際的な人材資源を活用し、小中学校と協働して多文化共生の社会づくりを推進する。

エ 保護者への情報提供を活発にするため導入した保護者用携帯メールの活用を促進する。

(2) 学び直し(とりわけ英・数・国)を推進するために地域の中学校等との連携を深める。

ア 近隣の中学校等と授業見学や教科指導について情報交換し、効果的な学び直しの手法等について研究する体制づくりをめざす。

4 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・回答数 生徒:559名中481名(86.0%)保護者:175名(31.3%) 教員:62名(100%) 課題であった保護者の回答数が昨年度(19%)に比べ増加した。</p> <p>・昨年度の学校満足度分析結果では、個々の「長吉高校の授業はわかりやすい」「自分の考えや意見を伝える力がついた」「先生の指導は納得できる」「学校行事に満足している」等の項目と「学校満足度」を示す項目は相関関係があり、これらの項目について工夫することにより学校満足度は改善される見込みがあると分析されている。エンパワメントスクールの達成目標である「エンパワメントスクールに来てよかった」(今年度64%)80%以上を達成するには今年度の結果を真摯に受け止め、今後もこれらの項目について、生徒・保護者の意見を聞きながら工夫した取り組みを行う必要がある。</p> <p>・重点的に取り組んでいる「長吉高校の授業はわかりやすい」については、66%で全体としては目標を達成したが、3期生も昨年同様1年次64%であったのが2年次55%に下がっている。2年次からモジュールがなくなり授業内容が高度になるため、生徒の到達度に合わせ授業が理解できるよう各教科で工夫したが結果に結びつかなかった。長吉高校の傾向として、学習力・学力とも2年生で落ち込む傾向がある。2年生の早い時期から進むべき路を考えることで学習の必要性を実感させるなど、学習意欲を高める工夫が必要である。進路実現に向けてカリキュラム等も含め、学校全体で取り組むことが喫緊の課題である。</p> <p>・昨年度の分析でもいくつかの項目で、教員の意識と生徒や保護者の受け止め方に差があった。この差をどう埋めていくかが大きな課題である。</p>	<p>第1回 平成30年5月19日(土) 10:00~12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンパワ I 期生 209 名入学、155 名卒業の結果について、1 年生から 3 年生にかけて人数がどういう風に減ってしまったのか。 ・長吉高校は生徒に向けて 1 年生でモジュール授業等で学び直しを行っているが、2 年生での授業内容にギャップがある。そこの対応についてカリキュラムを含めてどのような工夫、取り組みを行う計画があるのか。 ・たくさん生徒がいる中、一人ひとりに寄り添い対応していくことが長吉高校のこれからの課題だと思う。学校経営計画中期目標で基礎・基本の定着と「わかる授業」づくりで 5 点あげているが授業の中でどれが大切か。 ・長吉高校においては生徒の居場所づくりは課題と思うが、学校はどのように対応していくのか。 ・挨拶ができない、コミュニケーションが取れない生徒をどう社会に適応できるよう育てるのか。 ・学校経営計画に向けての学校の取組みを聞き、全会一致で平成 30 年度学校経営計画を承認する。 <p>第2回 平成30年11月21日(水) 14:30~16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を毎年見ているが、一部の生徒は寝ていたが生徒が主体的に授業に取り組んでいる様子は見えた。 ・校則で遅刻が繰り返されると停学になると聞いたが、遅刻で停学になるのは逆効果。 ・遅刻も含めて生徒の指導を一律にやっていたは無理なところもある。その生徒に合わせて、ケースバイケースで対応を。 ・コミュニケーションの授業を取り入れたら遅刻も減るのではないか・ ・パソコンの授業は 1 年生と 2 年生では空気が違う。2 年生は選択で興味ある生徒と聞いて、好きになることが大事と感じた。 ・視聴覚教材が増えてくる中、文字が読めない、話を聞けない生徒が増えているのは残念。生きる力を養ってほしい。 ・学校斡旋就職で 85 名希望している中、1 次斡旋に乗ったのは 42 名。半減してしまうことが課題。何らかの対策が必要。 ・授業改善は永遠の課題。いろいろ工夫しながら進める必要がある。 <p>第3回 平成31年3月16日(土) 10:00~12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な挨拶、目配り、気配りが普通でできる生徒を高校は育ててほしい。 ・保護者と教員の関わる時間を増やす。生徒と教員と中学校とつながりながら長吉高校が自慢できる学校にしてほしい。 ・長吉高校のミッションが明記されている。平成 31 年度学校経営計画の「めざす学校像」および「中期目標」を承認します。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	<p>(1) 共感からはじまる「わかる授業」づくりをめざした校内体制強化</p> <p>ア 共感からはじまる「わかる授業」づくりのための授業改善の取組み</p> <p>エ ICTを活用し「わかる授業」の展開</p> <p>オ 授業のユニバーサルデザイン化の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 共感からはじまる「わかる授業」づくりのPT(各教科の中心教員で組織)を中心に、本校生徒の学習状況(実態)をもとに、それぞれの教科における従来の授業の見直しを行うとともに、教科ごと及び教科を超えた取組みの工夫を提案し教員全体で共有できるようにする。</p> <p>エ 校内研修を通じて電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。また、電子黒板の効果的な使い方について、先進的な取組みを実践している教員が講師になり校内研修を実施する。</p> <p>オ 授業におけるナチュラルサポート(①~⑫)を実践する。①教室環境を確認する。②教科書、ノート等必要なものを机の上においているか確認する。③授業のめあてを書き本時のポイントを示す。④全員が静かになったことを確認してから話し始める習慣をつける。⑤板書を工夫する。⑥今は「聞くとき」と「書くとき」「話すとき」を区別し、同時に提示しない。⑦大事なところは、何度か繰り返し説明する。⑧視覚的に示すことはできる教材・教具を多用する。⑨生徒の努力や取組みをほめる機会を多くつくる。⑩本時のポイントを復唱し、まとめ、振り返りを行う。⑪授業の中で何度かリスタートの場面をつくる。⑫全体への説明や指示はできるだけシンプルにする。</p>	<p>(1) 学校力を高めるため定期考査期間を活用し、年3回以上の教員研修を実施する。研修は教頭、学年主任が中心となって企画し年2回の授業担当者会議と連動させ実施する。</p> <p>ア ・他のエンパワメントスクール及び「わかる授業」づくりを推進している先進校を訪問し、授業見学とともに各校の取組みを聞き取り、報告会をもつ。 ・公開授業週間を年間2回以上実施する。</p> <p>・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」に対して「そう思う」「ややそう思う」併せての回答63%以上をめざす。(H29:61%)</p> <p>エ・電子黒板設置教室の授業活用率83%以上をめざす。(H29:80%)</p> <p>・電子黒板活用のための校内研修を実施する。</p> <p>オ・授業におけるナチュラルサポートを意識した授業実践を教科会議を活用して行う。各自で振り返り行う。</p> <p>・「授業におけるナチュラルサポート」を意識した授業ができてきているか確認するために、生徒の学校教育自己診断における「授業のわかりやすさ」について、「そう思う」と「ややそう思う」で63%以上をめざす。(H29:61%)</p> <p>・生徒理解のための校内研修として、年間2回の授業担当者会議を活用する。</p>	<p>年間4回実施(4月5日、5月22日、12月3日、3月6日) (◎)</p> <p>12月6日~7日神奈川県立高校2校訪問(◎)</p> <p>6月、11月公開授業週間を設定(O)</p> <p>65.9%(◎)</p> <p>66.1%(△)</p> <p>4月当初教員研修でICT機器活用の研修を実施した(O) 意識して教科会議で活用について取り上げるには至っていない(△)</p> <p>65.9%(◎)(再掲)</p> <p>学年別授業担当者成績会議を2回実施(O)</p>

府立長吉高等学校

2 安心・安全な学校づくり	(1)エンパワメントスクール改編の推進 ア 分掌体制の刷新	(1) ア 教頭を中心とし分掌体制の再構築を行う。	(1) ア・学年制に即した分掌体制の在り方に係る諸課題を運営委員会を活用して検討する。(2回/学期)	首席を中心に分掌会議を開催し在り方について検討し、今年度内の再編は行わずに継続して検討することにした。(◎)
	ウ モジュール授業及びエンパワメントタイム等の取組み	ウ ・「エンパワ PT」を中心に、エンパワメントタイム等について教材の作成、継続的に取り組み、スムーズな運営を行う。 ・モジュール授業等については、教材の時点修正を行う。また、各教科において、生徒につけたい学力の目標を決め、定点観測を行うとともに、定期的に指導方法等の修正を行う。	ウ・エンパワメントタイム等の満足度を授業アンケート等によって図る。エンパワメントタイム等の満足について、「そう思う」「ややそう思う」併せて75%以上をめざす。(H29:70%) ・国語・数学・英語のモジュール及び社会入門、理科入門については、各教科内で1学期中間考査までに、生徒につける学力の到達度を決めるとともに、1学期末に見直しを行い、達成できるように定期的に指導方法等の修正を加える。また、教科内で教材の時点修正及び共有化を図る。 ・上記の教科において教科会議を活用し、定点観測を行う。定点観測方法の企画、実施は教頭を中心に教務部と教科が連携し行う。	71.5% 昨年度の満足度は上回ったが目標には達しなかった(△) 各教科で府教委の到達度目標をもとに生徒に付けたい学力目標を確認。定期的に指導方法の修正を検討するとともに教材の共有を図ったが、まだ工夫が必要である(△) 教科会議で到達度の確認は行うが教頭中心の連携には至っていない(△)
	(2)セーフティネットの拡充 ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす	(2) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導 ・特に1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 ・担任等は生徒の出欠状況の把握を行い、出席率の低い生徒や長期欠席者等を中心に早期に保護者と連絡をとる。5月連休明け、夏休み明け、後期の早い段階、冬休み明けの生徒の出欠状況に応じて、生徒や保護者との懇談や家庭訪問を行う。	(2) ア・1年生は4～5月に生徒・保護者との懇談期間を設ける。また、出席率の低い生徒には状況に応じて保護者懇談や家庭訪問を行う。 ・1年生については、高校生活が円滑にいくよう中学校ヒアリングを行うとともに、問題事象の状況に応じて中学校と連携する。 ・「先生は悩みや相談にいていねいにに応じてくれる」(生徒用)項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて60%以上をめざす。(H29:58%) ・「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて62%以上をめざす。(H29:60%)	4月、5月それぞれ懇談期間を設けて懇談実施。保護者との良好な関係が築けた。(◎) 3月に中学校ヒアリング実施。(◎) 59.6%(○)
	ウ 学校行事の改善	ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。	ウ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて63%以上をめざす。(H29:60%)	60.1%(△) 体育祭、文化祭終了後のアンケート結果は良好
	エ 図書室の活性化	エ 図書委員生徒を活用し、おすすめ図書の充実とともに、生徒が図書室に来て本を読みたくなるような工夫を行う。	エ・本の貸し出し冊数を前年度よりも3%増やす。 H30:299冊(H29:290冊)	581冊(◎)
	オ 部活動の活性化	オ 新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教員で取り組む。	オ・年度末における1年生の部活動加入率55%をめざす。 (H29:53%)	47%(△) 学校全体は58%
	キ 清掃活動の推進	キ 毎日教室の清掃を行う。	キ・学校教育自己診断の「清掃活動を進んで行う」項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて58%以上をめざす。(H29:55%)	54.4%(△)
	(3)本校独自のキャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進	(3) ア・昨年度、ガイダンス部が作成した3年間を見通したキャリア支援計画を、教頭のもとガイダンス部、教務部、学年代表で検討し具体化する。 ・本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。	(3) ア・3年間を見通したキャリア支援計画を左記のメンバーで検討し具体化し、各学年における指導のテーマと達成目標を明確にする。 ・就職内定率90%以上(H29:86%) ・CCの効果的な活用を図るため、ガイダンス部長とCCとの連携を密にする。 また、SC、SSWは、各学年と保健カウンセリング部との連携を密にし、生徒の学校生活の安心・安定化を図る。	メンバーによる検討会は具体化していない(△) 100%(◎) 連携を密にしてCCによる個別指導が充実(◎) 配当回数をフルに活用し生徒の安心・安定化を図った(◎)
	イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上	イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。	イ・生徒対象・学校教育自己診断に「私は長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う」の項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて、55%以上をめざす。(H29:51%)	55.8%(◎)
	ウ 社会人としての態度・マナーの育成	ウ・遅刻や服装・頭髪等について指導を徹底する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。	ウ・生徒部学年主担の役割を明確にし、生徒部長との連携を密にし、学年中心の生徒指導体制へ移行する。 学校遅刻数を昨年度比3%減らす。(H30:4231名) (H29.12:1・2・3年計:4362名) ・生徒対象・学校教育自己診断に「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて、83%以上をめざす。(H29:81%)	学年所属の教員と連携し指導する体制を整えた(○) 5082名(△) 78.1%(△)
(4)人権教育の推進 ウ 多文化共生の学校	(4) ウ 「多文化プロジェクト」(メンバー:教頭、人権文化部長、ガイダンス部、教務部、学年主任代表、多文化研究会等)を活用し、外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。	(4) ウ・「多文化プロジェクト」を活用し、外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる新たな学校行事を企画し、H31年度の実施の準備をする。	文化祭等の取組みをもとに交流行事を企画検討中(○)	
(5) ア 大学等との連携	(5) ア・学校行事や授業、生徒の学習支援等について大学等と連携する。	(5) ア・2つ以上の大学・専門学校等と連携をめざす。	2つの大学と連携協定を結び、行事や授業で効果が上がっている(○)	

府立長吉高等学校

<p>3 積極的な情報発信</p>	<p>(1) 中学校等への広報強化 ア 授業公開及び学校説明会等の実施</p> <p>イ 地域や小中学校等との連携した取組みの推進</p> <p>エ 保護者への情報提供</p> <p>(2) 地域の小中学校との連携の推進 ア 近隣の中学校等との授業見学や教科に関する情報交換</p>	<p>(1) ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方々に見学してもらう。 ・また、HP 等通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。 ・さらに、周辺地域の中学校を中心に教職員による(管理職も含む)中学校訪問を行うとともに、生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。</p> <p>イ・地域清掃などのボランティア活動や出前授業、ゲストティーチャー等、地域や小中学校等へ出かける取組みを進める。</p> <p>エ 導入した保護者用携帯メールの活用促進</p> <p>(2) ア・近隣の中学校等との授業見学や教科研究等について情報交換し、学校連携を継続的に行う体制を構築する。</p>	<p>(1) ア ・HP や校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は掲示内容を入れ替える。 ・中学校教員向け学校説明会と公開授業を組合わせて実施する。(年間1回以上) ・長吉高校 PR 隊を結成(PR 隊:35人以上をめぐす)し、学校説明会や体験授業等のサポートを行う。また、生徒の出身中学校訪問22件以上をめぐす。(H29:20件) ・平野・東住吉・住吉・阿倍野区、八尾市、松原市、東大阪市、藤井寺市、羽曳野市を中心に、教職員による中学校訪問を年間2回以上実施する。</p> <p>イ・保健カウンセリング部が保健委員の生徒を中心に生徒有志を募り、「地域清掃」を年間6回以上行う。 (H29:5回) ・人権文化部の指導のもと、外国にルーツを持つ生徒の小中学校へのゲストティーチャーを年間2回以上行う。 (H29:2回)</p> <p>エ・保護者用携帯メールを活用し、保護者への積極的な情報発信を行う(1回以上/月)</p> <p>(2) ア・近隣の中学校等から、本校の授業見学に来てもらい、その後、授業についての意見交換を行う機会を2回以上もつ。(H29:1回)</p>	<p>行事計画等随時入れ替えた(◎) 11月に公開授業と学校説明会を組み合わせ実施した(○) 20人の生徒が説明会のサポートに参加。母校訪問3校(△) 7月9日に実施(○)</p> <p>地域清掃6回実施予定(○)</p> <p>天美北小、平野支援2校実施(○)</p> <p>26回(◎)</p> <p>長吉西中学の授業見学に出向き中学教員と意見交換実施(△)</p>
<p>4 ICTを効果的に活用</p>	<p>(1) ICT等の活用により、教職員の事務作業時間の軽減</p> <p>(2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成</p>	<p>(1) ・校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。また、このことにより、教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する</p> <p>(2) ・ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。</p>	<p>(1) ・SSCの掲示板活用と職員室掲示を併用し教職員への日々の連絡体制を徹底する。</p> <p>(2) ・ミドルリーダーの育成または教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を1回以上実施する。</p>	<p>SSC掲示板、職員室掲示の活用は量っているが、SSC掲示板活用は低調(○)</p> <p>OJT活用によるミドルリーダー育成と校長による経験年数の少ない教員研修を実施した(◎)</p>